

校庭の梅の花が一輪、また一輪と咲き、春がどんどん近づいてきていることを感じさせてくれます。今年度もいよいよ大詰め。あと一月ほどとなりました。梅は、厳しい冬の寒さに耐えて、春にさがけて咲く気品の高い花であり、また学問を愛する意味をもつ花であると言い伝えられ「好文木（こうぶんぼく）」とも呼ばれています。

小ヶ倉小の子供たちも、雪に耐えて美しく咲き、馥郁（ふくいく）※1と匂う梅花のように、今まさに1年間のまとめとして、目標や理想を実現しようとしています。下の詩のように、全ての子が自分らしい花を咲かせることができるようサポートしていきます。

ひとつの花が いかに美しく咲いても  
春が来たといわれぬ  
すべての花が 咲きそろってこそ  
春になったといえるのだ

※1 ふくいく：香りがよいさま。よい香りが漂っている様子



## 恩送り ～その①～

教員を希望する若者が減ってきている昨今ですが、昨秋本校には、「先生になりたい」という志をもって「教育実習」として訪れた2名の学生がいました。教職員と子供たちと一緒に時を過ごしながら、多くのことを学んでもらえるのは、逆に私たちが学ぶこと、気付かされることも多く、貴重な機会でした。どこの学校でもよくある教育実習ですが、私たち教員も「いつか通った道」です。それぞれ学校や時は違っていても、教育実習をさせていただいて今があります。お世話になった先生方や子供たちには感謝の気持ちと、情熱以外に指導技術も何もなかったという申し訳ない気持ちとでいっぱいです。しかし、残念ながらその方々に直接恩返しをすることはなかなか難しいものがあります。そういう思いもあり、教育実習生に対する関わりがその「恩返し」になっています。正確に言うと「恩送り」です。

【恩送り】…人から受けた恩を、直接その人に返すのではなく、別の人に送ること

【恩返し】…人から受けた恩を忘れず、いつかその恩に報いること、返すこと。

私たちの経験の中には、誰もが人に助けってもらったり、親切にしてもらったりしたことがあるでしょう。思いやりを受けてうれしかった気持ちをいつか相手に返したいと思っではいるものの、なかなか実現できずにいる、なんてこともあると思います。そこで、この「恩送り」です。この「恩送り」は、それぞれ山のようにチャンスがあるはずですが、もしかすると、恩返しをする場面よりも「恩送り」の方が多いような気がします。子供たちが家庭や地域でいただいている愛情の全ては、次の世代への「恩送り」につながっているといっても過言ではないと思います。

本校では、4月から6年生と1年生の関わりが始まったり、運動会やクラブ活動、縦割り活動などにおいても上級生が下級生に教え伝えたりするという関係があります。現在、委員会活動では、すでに4年生の活動がスタートし、その指導役として6年生がしっかりと「恩送り」をしています。下級生が上級生にお世話になる経験は、感謝の気持ちとともに、目上の人への尊敬や憧れにつながり「恩返し（恩送り）」をしたい！自分もあんなふうになりたい！という気持ちを育み、結果として互いを尊重し、支え合い助け合う好循環を生むのだと思います。そういう「恩送り」の基盤を育む温かな小ヶ倉小でありたいと思います。



## 3月の主な行事（予定）



| 日  | 曜 | 学校行事（予定）     |
|----|---|--------------|
| 5  | 火 | 6年生を送る会      |
| 6  | 水 | 特別日課開始（～14日） |
| 7  | 木 | 下校時パトロール     |
| 13 | 水 | 卒業式総練習       |
| 15 | 金 | 卒業式会場設営      |
| 18 | 月 | 第77回卒業証書授与式  |
| 20 | 水 | 春分の日         |
| 22 | 金 | 修了式・離任式      |

①6日からの「特別日課」時は、**全学年13:30頃の下校**となります。

②15日は、**1～3、6年生は13:10頃の下校**となります（4・5年生は、14:50頃下校）。